

## 事前予約と医療連携事業を 推進しています

市民病院では、外来診療で毎日約1500名が受診されることから、「待ち時間」の短縮が求められています。その対策の一環として、事前予約していただくことや、地域のかかりつけ医との連携事業を進めています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

### 事前予約について

病状が緊急でない場合は、原則として前日までの予約制になります。ただし、今までに市民病院で診療されたことのない方（新規患者）は、現在のところ予約できませんので、当日に総合受付へお越しください。なお、新規患者の方でも、他の医療機関の紹介状を持って市民病院から紹介される方は、その医療機関から予約していただくことができます。

病状が緊急な場合は、総合受付か救急受付へお越しください。ただし、救急に限り24時間診療いたします。

### 予約先と受付時間

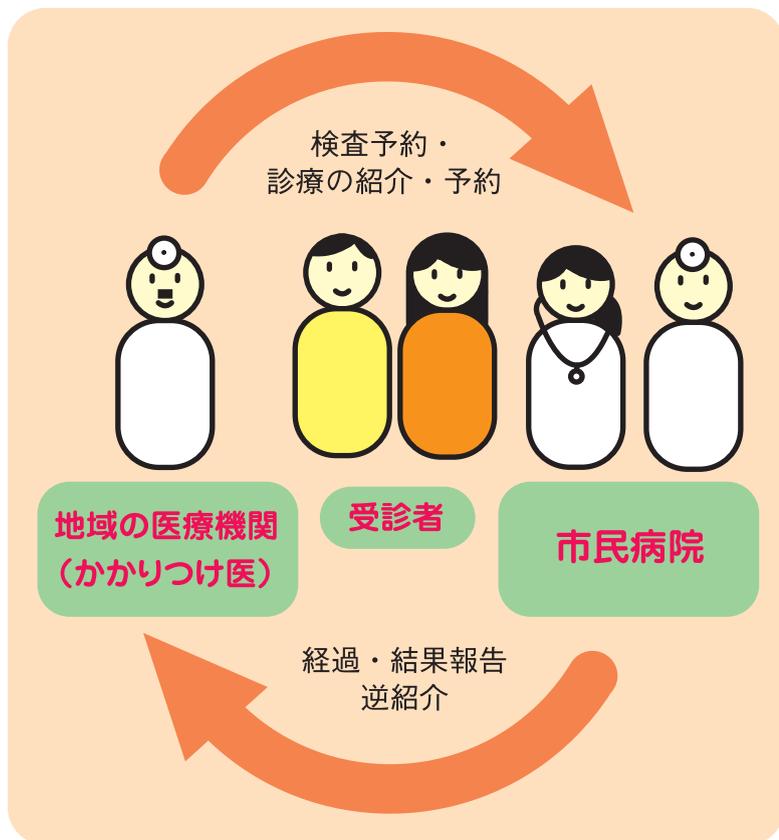
- ・予約連絡先  
☎57-0048
- ・予約受付時間  
平日午前9時～午後3時
- ・診療受付時間  
平日午前8時半～11時半
- ・問い合わせ  
☎57-0057

### 医療連携事業について

「かかりつけ医」とは、皆さんやご家族の病気にことについてよく知っている、身近な医師のことです。地域のかかりつけ医との連携を進める医療連携事業は、厚生労働省が推奨しており、医療の機能分担を図るものです。今かかっている病気やこれまでにかかった病気、何の薬を飲んでいるかなど、普段か

らかかりつけ医に相談してあげば、いざというときに適切な判断によって、最適な診療を受けることができます。市民病院では、医療連携室を設置し、かかりつけ医からの検査の予約や診療の紹介・予約を受け付けています。また、市民病院で診療を受け病状の安定した方は、かかりつけ医で日常の管理をしていただくなど、医療機関相互の役割分担を図っています。

### 医療連携事業のイメージ



# 子供がかかるとなる感染症について

小児によく見られる感染症の、症状・経過の概略、流行や予防策の動向、新しい知見など一部を紹介します。

## 麻疹（はしか）

麻疹は、過去20年間に自然感染者が減少した上にワクチン接種率も低く、20世紀末に小児期を過ごした世代を中心に抗体保有者が激減してしましました。しかし、平成13年に国内で流行し、すでに予防策が進み感染者が著しく減っていた欧米各国から「感染輸出国」として響登（ひんしゅく）を買いました。このため、このころから我が国でも地域・全国規模で麻疹対策に本腰を入れられるようになります。

疫学上は、国民の95%以上が抗体を獲得すれば、麻疹の流行は終息へ向かうとされています。麻疹ワクチンを1回接種した場合の抗体獲得率は95%と99%といわれています。

抗体保有率の更なる上昇を目指して、平成18年4月から麻疹・風疹混合ワクチンの2回接種法に変更されました。

これは、2回接種することによって、1回目に打ちそびれてしまっていたケースや、抗体が1回の接種で獲得できなかったり、獲得後に消退してしまうなどのケースの救済を図るためのものです。

## 風疹（三日ばしか）

風疹は、それまで女子中学生のみを対象にしていたワクチン接種を、平成7年から17歳の男女に変更したことで、平成11年以降小児の罹患が激減しました。ただし、接種法変更の過渡期に7歳以上中学生以下だった世代への移行措置が不十分だったために、現在20代になっているそれらの世代に小流行が見られます。またそれに付随して、近年新生児の先天性風疹症候群の報告数が増加傾向にあります。

## 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

流行性耳下腺炎は、数千分の1の頻度で聴覚障害が起きます。例えば、突発性難聴とされているものの一部には、

流行性耳下腺炎の原因となるムンプスウイルスの不顕性感染例が報告されています。ムンプスワクチン接種後の髄膜炎は、自然感染で合併する率の百分の1以下とされています。

また、ワクチン接種後に自然感染した場合でも、髄膜炎の合併率は低下することが報告されています。

## インフルエンザ

インフルエンザワクチンの抗体獲得率は50%とされていますが、実際の発症阻止率は40%程度とされています。近年鼻の粘膜に接種するワクチンの有効性も報告されていますが、我が国ではまだ実用化され

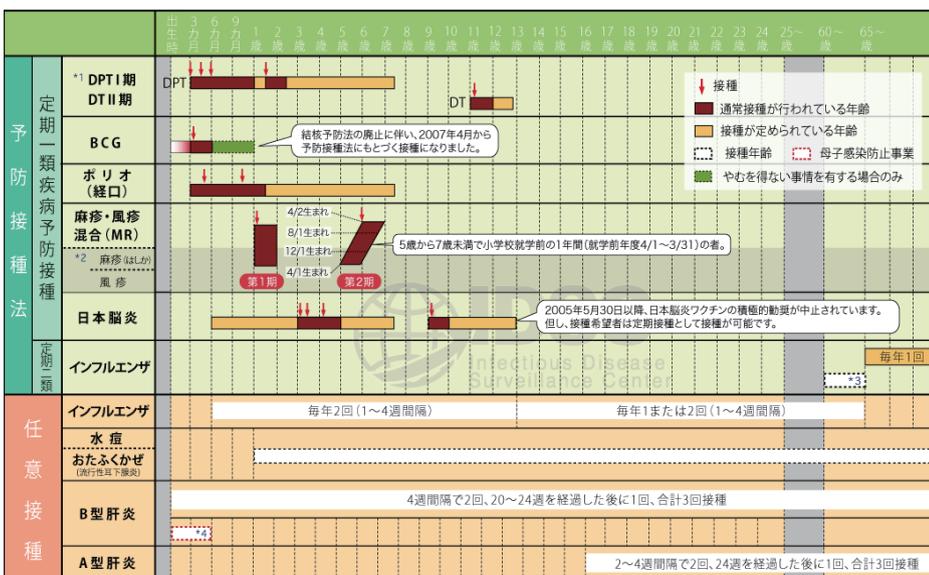
ていません。

## 百日咳（ひやくにちせき）

百日咳は、近年成人の慢性咳嗽（まんせいがいそう）・せきが出続けることの一部で、その原因となっていることが報告されています。

小児科 河邊太加志

日本の予防接種スケジュール



# おとしよりの呼吸器感染症

おとしよりの呼吸器感染症の代表として、肺炎、インフルエンザ、結核についてお話しします。

## 肺炎

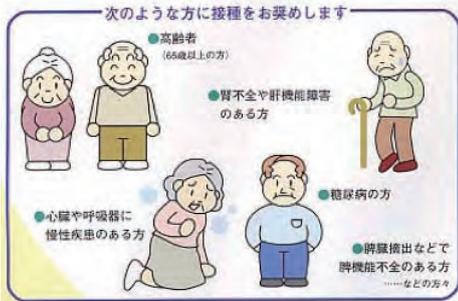
肺炎は、高齢者にとって怖い病気で、重症化しやすく、生命にかかわることもありま  
す。しかも、高齢者は症状が  
出にくく、発見が遅れること  
が多くあります。

原因菌としては、肺炎球菌  
が最も多くみられます。この  
菌の早期発見のために、尿中  
抗原検査を行います。また予  
防のために肺炎球菌ワクチン

## 肺炎球菌ワクチンとは？

### 特徴

- 肺炎球菌による感染症の約80％に効果が期待されます。
- 通常、1回の接種で約5年間ほど免疫が持続すると言われています。
- 接種後の副反応(副作用)として注射部位の腫れ・痛み・軽い熱が見られることがあります。



インフルエンザは高熱などの全身症状が強く、さらには肺炎などの合併症で重症化します。このため、発病予防効果は弱いですが、重症化を予防するために毎年  
の予防接種が勧められます。

## インフルエンザ

を接種します。現在日本では、一生の間に1度行うこと  
ととなっています。

## インフルエンザ予防接種の効果

(1,000人に対するの比較)

### 老人施設入所者

- ・受けていない人 死亡者数1,000人
- ・受けていたら 助かった人800人

### 施設入所者と一般高齢者の平均

- ・受けていない人 入院者数1,000人
- ・受けていたら 入院するほど悪化しなかった人500人

### 65歳未満の健康者

- ・受けていない人 発病者数1,000人
- ・受けていたら 発病しなかった人800人

## 肺結核

肺結核は決して過去の病気ではなく、新登録患者に占める高齢者の割合は徐々に増加しています。治すためには、副作用に注意しながら、抗結核薬の内服による治療をきちんと続けることが大切です。いずれの病気においても、予防、早期発見・早期治療が大切です。体調不良時には早めの受診をお勧めします。

呼吸器科 鳥居正芳

## 高齢者の結核発病の仕方

(結核予防会会長 青木正和氏による)

### 内因性再燃

大部分の高齢者の結核発病  
ずっと以前に感染を受け、安定した病巣内で増殖を止めていた結核菌が、何らかの理由で再び増殖を初めて発病したもの

初感染発病 偶然、高年齢まで未感染しており、今回新たに発病  
高齢期になるまで結核の感染を受けずにいたため、今回感染して発病したもの

二次的初感染発病 初感染巣が完全に治癒した後に二次的に感染し発病

初感染は完全に治癒しているが長期間のうちに免疫を失い、未感染と同じ状態になり感染し発病したもの

### 再感染発病

本当の意味の再感染  
以前に初感染を受け、免疫を持っているが、HIV感染、腎機能不全などで免疫が低下し、再感染を受けて発病したもの

皆様のご意見ご要望にお答えします

ご意見  
赤ちゃんと入れる  
トイレはどこに？

緊急でかかりましたが、  
トイレにベビーチェアがないため、不便でした。医師に子供(赤ちゃん)を抱いてもらってトイレに入りましたが…。

## 市民病院から

現在、院内には、赤ちゃんを連れて利用できるトイレを外来1階・2階のエスカレーター横に設置しています。このトイレは、車椅子使用者、ベビーカー利用者及びベビーシート利用者の3者が利用できるように、約4㎡の室内に洗面、身障者用便器、手すり及びベビーシートを設け、入口にその利用方法を表示していますので、今後、ご利用いただけますようお願いします。  
なお、今後、このようなことがないよう、救急外来受け付けへ周知徹底を行います。

研究の成果をよりよい看護に

平成19年度看護研究発表会

平成19年度看護研究発表会が、1月27日(日)に講堂で行われました。看護師・助産師127名という積極的な参加のもと、病棟・外来を含め12題の研究発表が行われ、多忙な業務のなか、がんばって作成した研究結果が



研究結果を発表する谷口看護師

発表されました。

さまざまな研究が発表されるなか、参加者からは成果を自分たちの業務に反映しようという意気込みが感じられました。

今回の研究会に参加・発表した谷口さんの感想です

「先日、平成19年度看護研究発表会が院内で行われました。

私たち看護師は、日ごろの日常業務とは別に『看護研究』という研究を行っています。看護研究は、臨床現場の看護の質を高める目的で行われています。今年の研究発表では、がん患者さんの看護や医療事故を防ぐ問題など、看護の実践に根ざした発表がいろいろありました。私は実際の事例をもとに糖尿病の患者さんの教育について発表しました。

日ごろ患者さんや家族と接しケアを行うなかで、私たちが看護師が持つ疑問や問題を科学的に研究し、その研究結果を共有し、創意工夫しながら少しでもよい看護を提供できるよう、今後も努力していこうと思います。」

外来1階看護師 谷口美和子

救急外来出入口に待合所ができました

救急外来への来院やお見舞い・面会などの帰りに、家族などのお迎えを待つ方が利用できる待合所を、救急外来出入口の外に新設しました。待合所は4面をガラスで囲み、風雨を防ぐようになっています。また、夜間でも安心して迎えを待つことができるよう照明がつくほか、寒さ対策のため遠赤外線暖房機を設置してあります。このほか、雨天時にも安心して車に乗れるように、待合所前の乗車スペースには屋根が設置されています。ぜひ、ご利用ください。

